

## 「インフルエンザの予防接種」

### 副作用にはどんなものがありますか？

ワクチン接種が望まれる対象者(米国予防接種諮問委員会によると)

- ・月齢6ヶ月～23ヶ月の乳幼児との同居ご家族、およびそれらの乳幼児を家庭外でお世話する方、特に月齢0～5ヶ月の乳児と接触する方
  - ・高齢者や慢性疾患のあるハイリスク者と同居しているご家族
  - ・保育園児や幼稚園児、学童など流行しやすい集団に属しているお子様
- (注 但し1歳未満の予防接種効果は年長児に比べて低いと報告されています)

### ワクチン接種は毎年必要ですか？

インフルエンザウィルスは毎年変異しながら流行し続けていますので、その年の流行を予測したワクチンを接種する必要があります。また免疫の持続は5ヶ月程度です。

### ワクチン接種を受けるのはいつがいいですか？

流行期が12月から翌年3月頃ですので、その頃に免疫が確立するためには12月には2回の接種が終了していることが望めます。

### ワクチンは2回必要ですか？

1回よりも2回接種を受けた場合の方がインフルエンザに罹りにくいと報告されています。昨年2回受けていた場合は、今年は1回でもよいという報告があります。

当クリニックではお子様は、

初年度2回(2～4週あけて)、

翌年は2～6歳は2回、

学童は1回(ご希望があれば2回)

大人は、初年度でも1回の接種にしています。



### ワクチンを受けてもインフルエンザに罹りますか？

ワクチンの効果は50～80%といわれています。ワクチン接種した人の10～20%がインフルエンザに罹ったと報告されています。個人の予防効果とともに、集団や家族への予防効果が期待されています。インフルエンザが重症化しやすい高齢者や乳児のおられ

る家族では、積極的に予防接種を受けることが望めます。

#### 副作用にはどんなものがありますか？

- 局所反応：

発赤、腫脹、硬結、疼痛が10～30%にみられます。

- 全身的反応：

ワクチン接種後6～12時間後に発熱、倦怠感は10%程度出現し、他にめまい、リンパ節腫脹、嘔吐、下痢の報告もあります

- アレルギー：

卵アレルギーによると思われる蕁麻疹、血管浮腫、喘息発作などがあります

まれにおこる重大な副作用としては、一過性の意識消失、急性散在性脳脊髄炎、ギランバレー症候群、痙攣があります。